Ⅲ. 防疫作業前の準備作業

作業を効率的に進めるためには、事前の調査と作業の段取りが非常に重要。 まず農家の事前調査を実施し、それに基づき殺処分方法、必要な人員を確定し、 さらに、実際に殺処分を行うための班編成及びその役割分担を明確にしておく。

1. 事前の農場調査

防疫作業全体を円滑かつ効率的に進めるためには、発生農場の家きん舎構造 や周辺環境を事前に十分調査することによって、適切な殺処分方法を選び、必要な資材を準備し、作業の段取りを詰めておくことが非常に重要。

調査する者は、あらかじめ準備した事前調査票を用いて以下のような事項について調査する。

- (1) 地理的情報(道幅、水源、隣接地の所有者等)の把握
- ①農場及び埋却地を含む周辺の見取図の作成(道路も含む)
- (2) 発生農場内の調査 ※夜間も作業する場合、必要な資材も加えて検討する。
- ①飼養形態、鶏舎構造及び家きん舎毎の飼養羽数
- ②家きん卵、死亡家きん、家きんの排泄物、堆肥等の運搬業者及び集積状況 (場所、量等)
- ③飼料関連業者及び飼料残量等
- ④ホイールローダー等の重機の所有及び重機や運搬用車両の動線
- ⑤防疫措置に必要な資材の量と搬入場所
 - ア 殺処分、清掃、消毒用資材
 - イ 防疫フェンスの有無と規模
 - ウ 仮設トイレ及び設置場所の確保
- ⑥防疫措置に必要な人員
- ⑦焼埋却等の準備状況
 - ア 埋却地の確保状況(場所、面積等)
 - イ 埋却地、焼却施設等への輸送方法
 - ウ 必要な資材 (重機、運搬用車両、消毒薬等)
- (3) 発生農場周辺の調査
- ①通行自粛・通行止めポイントの設置
 - ア ポイントの場所
 - イ ポイントの設置に必要な資材
 - ウ ポイントの運営に必要な人員
- ②仮設基地の設置
 - ア 設置場所と面積

- イ 設置に必要な資材
- ウ 休息に必要な資材(椅子、暖房機器、照明、給水等)
- エ 仮設トイレの設置場所(男・女)
- オ 救護場所の検討

事前調査をしっかりと行うことによって、殺処分作業の進め方、埋却地等への動線、乗り入れ可能な重機等の選定、防疫作業に必要な人員の手当と資材の準備など、防疫作業を効率的かつ安全に進めるために重要な事項に関して、より適切に判断することができる。

また、バイオセキュリティを確保するため、この時点で防疫服の着脱や長靴の履き替え、身体の消毒をどこで行うのか等を具体的に決め、汚染エリアと清浄エリアの境界を明確にしておく。

さらに、農場主の中には、殺処分について強い抵抗感を示される方もいるため、農場主の心情に配慮しながら、殺処分の必要性などをていねいに説明して理解を得る必要がある。

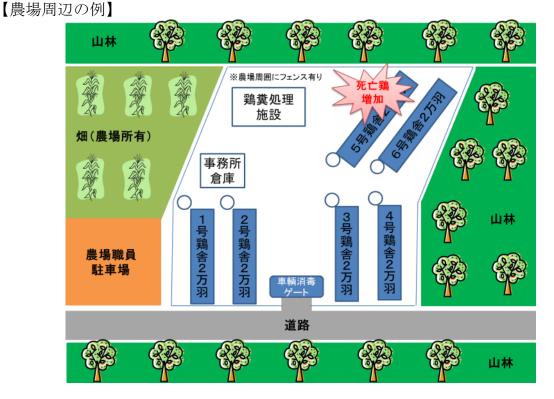
このように事前調査の目的は多岐にわたるため、地元の事情に詳しく経験豊かな方(家保や役場、あるいは農協の職員など)が参加する必要があるが、作業の実質的な責任者となる班長や副班長も一緒に参加する必要がある。

(参考)事前調査票の例

チェック	作業内容
	地図の作成(担当者:)
	1 発生地(農場等)の確認
	2 移動制限区域及び搬出制限区域の地図
	3 主要幹線道路が明瞭な拡大地図
	4 発生地と近隣の地図
	5 焼埋却予定地及び周辺の地図
	その他(
	必要事項の地図への記載(担当者:)
	1 発生地及び周辺農場
	2 家畜関連施設
	3 消毒ポイント予定地
	4 焼埋却予定地
	5 集合基地及び仮設基地
	6 防疫対策本部
	その他(
	現地防疫対策本部に関すること(担当者:)
	1 現地防疫対策本部の設置(県対策本部と同時)
	2 現地防疫対策本部緊急防疫対策会議の開催
	<u> </u>
	1 防疫作業計画の策定
	(1)殺処分から移動制限の解除までの作業工程表の作成
	(2)初動防疫に関する手法等の策定
lH	・殺処分方法等の動線の確認
	・搬出・運搬方法(鶏舎から埋却地までの動線、使用機材・重機等)
	・清掃・消毒方法(使用薬液、散布方法、水源確認等)
H	・境理却方法(シート使用、腐敗ガス対策等)、汚染物品処理方法
	・焼煙却万法(シート使用、腐敗万人対象等)、汚染物品処理万法 その他()
	ことの他で
	1 発生農場の敷地内又は隣接地等とし、以下の条件を満たす場所
	(1)人家、飲料水(井戸)、河川及び道路に接近しない
	(2)普通は人及び家畜が接近しない
	(3)水源への影響がない
	(3) 水源(30) 水源(30) (4) 最低4m程度の掘削が可能である
	(4) 最低4m程度の掘削が可能である (5) 埋却後3年以内に発掘、洪水、崩落の可能性がない
	(6)機械(特に重機)、資材の搬入が容易であること
ш	(6) (機械) (特に重機)、負性の機大が各効であること 集合基地及び仮設基地の選定(担当者:)
	(1) 集合基地 (1) (1) (2) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4
╚	・
	光生地(展場寺川に近く、紅半場が広く、多数の人員が収合できる場所(体目館、公氏語寺) 2 仮設基地
П	2 版版基地 - 発生地(農場等)の隣接地で、コンテナや仮設トイレ等を設置できる場所
	光生地(展場等)の隣接地で、コンナナや仮設トイレ等を設置できる場所 消毒ポイントの選定(担当者:)
	1 主要な幹線道路上(利用状況を勘案)で以下の条件を満たす場所 (1)大型東京の誘道、停止可能なスペースを有する
	(1)大型車両の誘導、停止可能なスペースを有する (2)東京が出るリオスナックの関盟が確保できる。
	(2)車両が出入りするための視界が確保できる
	(3)交通渋滞を引き起こさない (4)機材等を設置できる
	(5)周辺の環境(騒音・水質汚濁等)に十分に配慮すること (6)水の液保みが湿物され()
	(6)水の確保及び運搬方法()
	2 制限区域内の高速道路のインターチェンジ

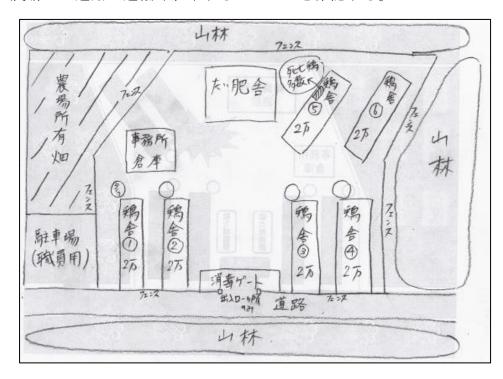
出典:鹿児島県(一部改)

(参考) 事前調査時に作成する農場周辺図のイメージ

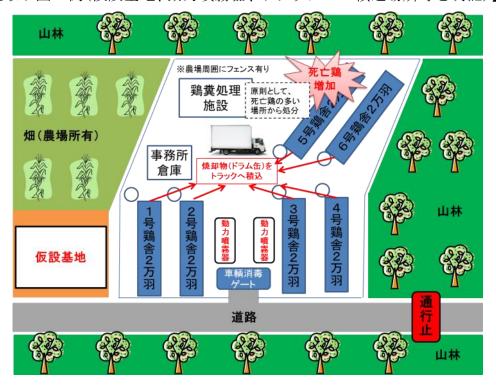


【農場見取り図(手書き)の例】

重機や車両がどこまで侵入できるかは、全体の作業効率を考えると非常に 重要。農場への道路の道幅や駐車するスペースを確認する。



【農場見取り図の例(仮設基地、動力噴霧器、トラックへの積込場所等を明記)】



2. 作業者に関する班編成と役割分担

- (1) 家保は、事前の農場調査の結果を踏まえて、作業計画を作成し、資材の 置き場、作業の動線、必要な人員数、班編成、その他必要事項を整理する。 ※防疫従事者の選定に際しては、事前に鳥類の飼養の有無を確認しておく。 鳥類の飼養状況によっては、従事できない防疫作業がある。
- (2) 作業者の班編成を行い、各班の役割分担も決めておく。さらに、班編制 に当たっては、各班の作業を円滑に進め、作業者の安全を確保するため、 各班の班長と副班長を決めておく。

【班長及び副班長の役割】

各班における防疫作業に関して、安全性に配慮しつつ、作業を的確かつ効率 的に実施するため、作業の責任者としての班長と補佐する副班長を決めておく。

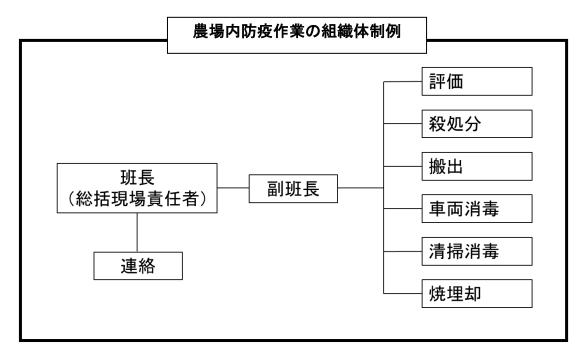
【留意事項】

- ①作業時には、各作業員が班長又は副班長、農場従業員等を明確に識別できるよう識別ベストを着用する。
- ②農場主、班内又は他班との円滑なコミュニケーションに努めるとともに、担当する班の作業全般を監督するよう心がける。
- ③当日の作業の段取りを班員に分かりやすく説明し、適切な指示を行えるよう 心がける。
- ④班員の安全な作業を常に確保するよう努めるとともに、万が一、事故等の不 測の事態に対する危機管理対応を適切に遂行できるようにする。
- ⑤消毒措置等、高いバイオセキュリティを常に維持できるよう作業者を指導す る。
- ⑥水分補給を含めた休憩、昼食の確保等の作業の進行及び健康管理を適切に行 う。
- ⑦その日の作業進行に関する問題点及び改善点等を含む作業日報を作成し、必要に応じて作業に反映させるように心がける。

3. 防疫作業の各役割における作業内容

発生農場では評価、殺処分、焼却・埋却、清掃消毒等の作業を行う。発生農場及び周辺にはウイルスが大量に存在するため、汚染エリアと清浄エリアを明確に区分し、一連の防疫作業を迅速に行い、清浄エリアへウイルスを拡散させないことが大切である。殺処分は原則として鶏舎内で行うが、やむを得ず家きん舎外で殺処分する場合は、病原体の拡散防止、死体処理場所への運搬に留意しながら行う。発生状況に応じて考える必要があるが、役割分担の例を以下に

示す。



- (1) 班長(総括現場責任者:家畜防疫員)
- ①防疫作業の進行・調整 人員の確認、作業工程の事前説明、作業の進行・調整
- ②オペレーター等との調整
 - ア 作業行程の打合せ、重機等の配備
 - イ 作業場所の確認
- ③事故、問題発生時の対応 事故、問題が発生した場合の連絡先の確認と対応
- (2) 副班長 (サポート)
- ①作業場の管理、資材の配布・回収
- ②不足資材の手配・調達
- (3)連絡

県対策本部、現地対策本部、集合基地等との連絡、進捗状況報告

- (4) 評価
- ①殺処分前の家きんの評価・汚染物品の評価
- ②代表的な個体の写真撮影
- (5) 殺処分
- ①捕鳥

殺処分するための捕鳥等(やむを得ず家きん舎外で殺処分する場合は、事前 に家きんを移動)

②殺処分

二酸化炭素ガス、泡殺鳥機等による殺処分

③記録

殺処分家きん(数)の記録

- (6)搬出
- ①殺処分した家きん(ペール缶等)を家きん舎等から搬出し、必要に応じて、 フレコンバッグ等に投入
- ②殺処分家きん等のトラックへの積込み
- ③殺処分家きん、汚染物品等をシートで覆うなどのウイルス拡散防止措置
- (7) 車両消毒
- ①農場出入口での車両消毒
- ②焼埋却地への運搬やウイルスの拡散防止を確認するため、運搬車両に随行
- (8)農場清掃消毒
- ①殺処分家きん搬出後の汚染物品(敷料等)の搬出
- ②農場の清掃、消毒
- (9) 燒却·埋却
- ①焼却
 - ア 焼却施設へ運搬するトラックの随行。
 - イ 焼却施設における荷卸し及び焼却の確認。
- ②埋却
 - ア 埋却地における死亡家きん、汚染物品等の埋却
 - イ 埋却地の消毒

4. 集合基地の設置

防疫作業者が集合し、防疫服への着替えや、資材を保管する場所として集合 基地を設置する。作業者はこの施設に集合し、バイオセキュリティに関する注 意等の伝達事項の説明を受けた後、専用バス等にて農場へ出発する。この基地 は発生農場等に比較的近く、かつ、駐車場が広く、多数の人員が収容できる場 所(体育館、公民館等)に設置する。また、この施設では、事前調査に基づき 準備した資材を一時保管し、資材係は各作業に先立ち、必要な資材の在庫を確 認後、仮設基地や発生農場等に配布する。

(1) 事前の候補施設の選定

家保は、平時に市町や保健所と協議して事前に候補リストを作成する。

(2) 発生時の集合基地の設置

現地農林事務所(総務課)は、市町や保健所とともに候補リストの中から集合基地を選定し、畜産振興課へ連絡する。

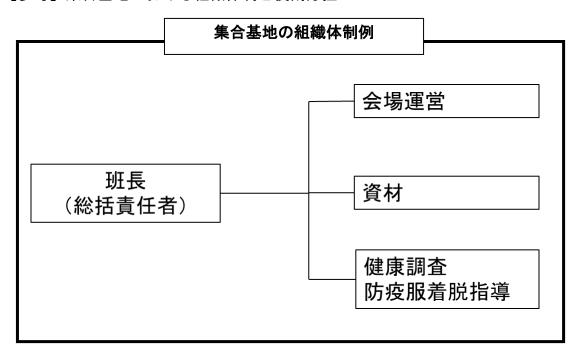
(3) 保健所職員等の動員準備

畜産振興課は、集合基地を農林水産政策課へ報告し、農林水産政策課は、 各農林事務所に動員準備を要請するとともに、健康増進課へ連絡し、保健所 職員等の動員準備を要請する。

(4) 資材の準備

現地家保は、必要資材の数量を備蓄資材とその他に分けて、現地農林事務所(総務課)へ報告する。現地農林事務所(総務課)は、動物薬業者、建設業者、ホームセンター等から必要資材を確保する。また、畜産振興課は、他の家保に備蓄資材の搬送を指示する。

【参考】集合基地における組織体制と役割分担



- (1) 集合基地総括(現場責任者:家畜防疫員)
- ①現地対策本部との連絡調整
 - ア 作業内容の確認(殺処分方法、殺処分家きんの搬出・運搬、清掃、消毒 方法、埋却方法、汚染物品処理方法等)
 - イ 作業進捗の確認
 - ウ 作業日程の確認
- ②当日の作業日程の説明、留意事項の説明
- (2) 会場運営係
- ①会場の設営
 - ア 駐車場の確保、誘導、整理

- イ 受付場所、防疫資材の配布場所、更衣室、集合場所、説明場所、移動 用履物の交換場所、手荷物預け場所、専用バス等への乗り込み場所等の 設置
- ウ 必要に応じシャワーの設置場所の検討(水道、排水路の確保が必要となるのであらかじめ設置場所を検討しておく)
- ②防疫作業者の受付・誘導
- (3) 資材係
- ①集合施設で着用する防疫服、移動用の履物等、仮設基地へ持っていく資材の 準備、配布
- ②在庫の確認、補充
- ③飲食等の手配
- (4) 健康調査要員及び防疫服の着脱指導要員
- ①防疫作業者の健康確認 ア 健康福祉部等のマニュアルに基づいて実施
- ②防疫服の着脱指導
 - ア 着脱指導要員が実施

【参考】集合基地における作業前の準備

(1)集合基地への集合

防疫作業者は、各自又は対策本部が用意した専用バス等を利用して集合する。

防疫服の下に着用する服装で集合し、着替え、タオル等を持参する。

- (2) 受付
- (3) 作業前の健康調査

保健所の医師等により、問診等(血圧・体温測定:自己測定)が実施される。なお、1週間以内に、インフルエンザに罹患した方、1週間以内に同居者がインフルエンザに罹患した方、インフルエンザ様症状(発熱37.5℃以上、咳、鼻汁、咽頭痛など)など体調がすぐれず異常があると確認された方は作業が認められない場合がある。

(4) 作業前の説明

係毎に集合し、各班の班長から、防疫服の着脱方法、バイオセキュリティを確保するための動線、担当する具体的作業内容、留意事項等について説明を受ける。

(5) 防疫服の着用(iii-P23「防護具の着脱方法」参照) 防疫服、ヘアキャップを着用する。防疫服には太めの油性マーカーを使って、胸・背面に役割、班名、氏名などを大きく記載する。

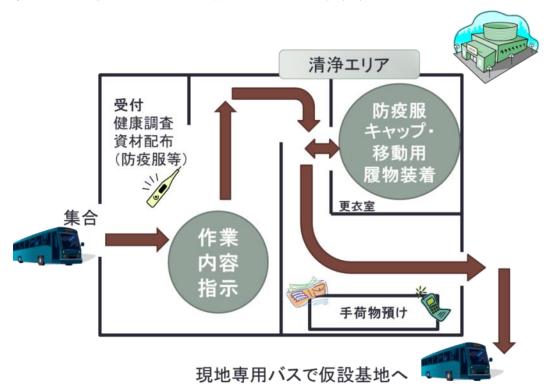


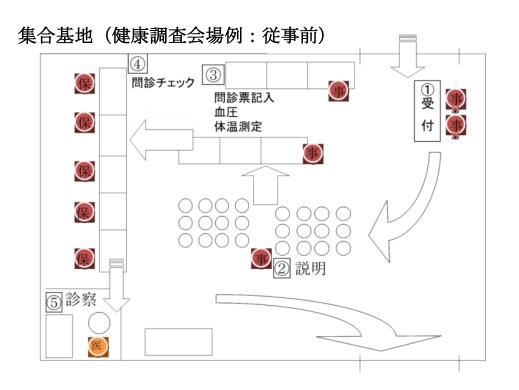
防疫服に役割、班名、氏名をマジックやスプレーで明記 班長は、識別ベストを着用

(6) 専用バスによる移動

準備の整った作業者は、発生農場への移動用履物(サンダル等)に履き替え、専用バス等で集合基地から仮設基地まで移動する。(まん延防止のため、専用バスを用いる。地元の作業者であっても、自宅から発生農場に直行するのではなく、まずは集合基地へ行く。)また、私物は集合基地に置いておく。

集合基地 (農場出発前の作業内容説明、着替え等)





【参考】バイオセキュリティと作業者の安全を確保するために遵守すべき事項

(1) 基本的な留意事項

汚染エリアには鳥インフルエンザウイルスが多量に存在している可能性がある。防疫作業者を介してウイルスが拡散することを防ぐため、作業者は、作業動線、汚染エリア及び清浄エリアが設定されていることを理解し、清浄エリアへの退出は原則として作業の終了後のみとし、退出時には必ず消毒・更衣を行う。

(2) 持参品

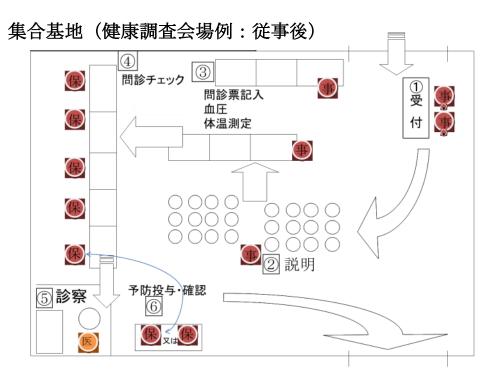
- ①防疫服、長靴などの防疫作業に必要な物品は、集合基地等に用意してあるので、通常は持ち込む必要はない。
- ②集合基地へは防疫服の下に着用する服装で集合する。作業終了後に更衣する 着替えと洗顔用のタオルを持参する。作業時に着用していた衣類はビニール 袋へ入れて持ち帰り、帰宅後に洗濯する。
- ③農場へ持ち込む物は最小限とする。持ち帰る物については充分に洗浄・消毒する必要があることから、腕時計、携帯電話、カメラ等は持込みを禁止する。携帯電話等をどうしても農場内に持ち込む必要がある時は、ビニール袋に入れ、退出時に消毒ができるようにする。

(3) 作業終了後の留意事項

- ①作業終了後には、所定の場所で全身を噴霧消毒し、所定の場所でゴーグル、マスク、手袋、長靴、防疫服等を脱ぎ、手洗い、うがいをする。(iii-P23 「防護具の着脱方法」参照)
- ② 帰宅用の服に更衣し、帰宅後は入浴するとともに、農場内で着用していた衣服を洗濯する。入浴の際、鼻や耳の穴も含めて全身を入念に洗う。その際、眼鏡等の身につけている物もよく洗浄する。

(4) 作業後の健康調査

保健所の医師等により、血圧測定、体温測定、問診、抗インフルエンザ薬の処方等が実施される。



(5) 帰任後の留意事項

作業終了後7日間は、鳥類との接触を避ける。

(6) 健康及び安全の確保

集合基地に到着した時点で体調がすぐれない場合、躊躇することなく、現 地責任者に申し出る。また、後述の「7. 防疫作業者の健康管理」において 作業者の健康管理に基づき実施する。

5. 農場周辺の消毒

農場内のみならず農場周辺についても、ウイルスの拡散を抑えるため、消石 灰の散布等によって十分に消毒する必要がある。また、作業者や車両及びその 運転手等が農場へ出入りする際に、ウイルスが拡散することを防ぐため、作業 上の汚染エリア及び清浄エリアを明確に区分した上で、徹底した消毒を行う。





農場周辺への消石灰散布

【留意事項】

- (1)作業者や車両等を介したウイルスの拡散を防止するため、農場への入口を1か所に制限するとともに、消毒ポイントを境として農場内側の作業エリア (汚染エリア) と農場外側の非作業エリア (清浄エリア) を明確に区分する。
- (2) 使用済み長靴等を消毒するための消毒用動力噴霧機や踏込消毒槽の他、 使用済みの防疫服や手袋等を廃棄するためにフレコンバッグなどを用意しておく。
- (3) 作業者や車両が農場へ出入りする際には、消毒ポイントで必ず消毒することを徹底しておく。特に、車両の足回りや運転席足元のマットは、念入りに消毒する。

6. 仮設基地の設営及び作業確認

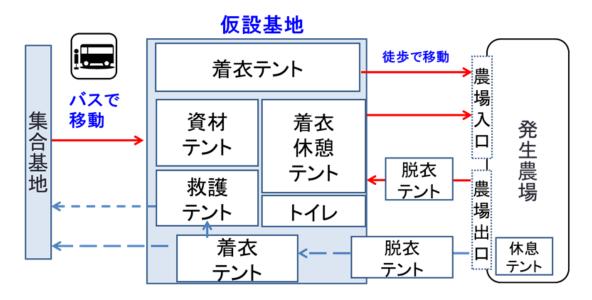
発生農場及びその周辺にはウイルスが多量に存在する。作業を終えた防疫作業者が農場から他の地域へウイルスを持ち出さないために、発生農場の隣接地にコンテナハウスやテントを使って仮設基地を設営する。

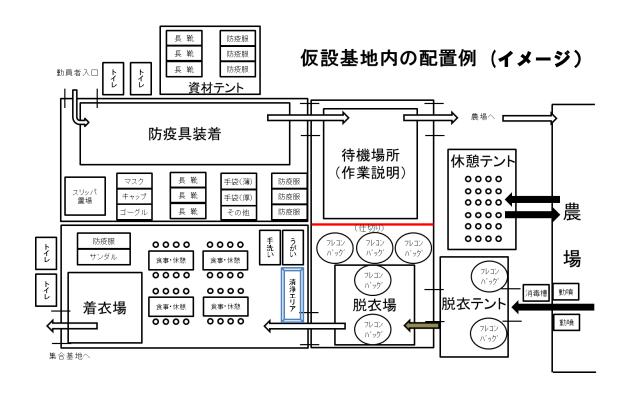
仮設基地には、発生農場に入る前に手袋、マスク等を装着する場所、防疫作業後に長靴や防疫服等を脱ぐ場所、うがい・手洗い場所、休憩場所、仮設トイレ等を設営する。なお、女性作業者にも配慮し、防疫服等を脱ぐ場所や仮設トイレは作業者の男女数を確認して十分なスペースや数を用意する。

多くの人や車両が発生農場へ出入りすることになるが、ウイルスを持ち出さないためにバイオセキュリティを十分に確保することが大切である。そのため、仮設基地内では、作業後に履物等によって基地内が汚染されないようにするため、入口と出口を明確に分けるなど、清浄エリアと汚染エリアを区分して人の動線を設定する。

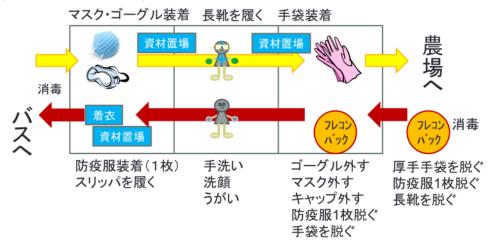
農場へ入り作業を開始する前に、清浄エリアで班長から当日の作業の段取り

や注意事項について説明を受ける。





仮設基地内の動線



(1) 事前の設営予定地の選定

家保は、平時に農場と協議して事前に設営予定地を選定しておく。

(2) 発生時の仮設基地の設置

現地家保は、事前に選定した場所について初動防疫対応を行った家畜防疫 員の報告を受け、仮設基地設置場所を選定し、現地農林事務所(総務課)に 連絡する。

(3) 資材の準備

現地家保は、必要資材の数量を備蓄資材とその他に分けて、現地農林事務所(総務課)へ報告する。現地農林事務所(総務課)は、動物薬業者、建設業者、ホームセンター等から資材を確保し、必要分を仮設基地に搬入する。また、畜産振興課は、他の農林事務所に備蓄資材の搬送を依頼する。

7. 防疫作業者の健康管理

人への感染防止対策の詳細については、鳥インフルエンザ対応資料集の「11 高病原性鳥インフルエンザ発生時の鳥インフルエンザの人に関する対策対応 マニュアル」参照。

(1) 防疫作業者の健康調査

- ①作業開始前に、集合基地において、保健所による「体温・血圧測定」「問診」 などの健康調査を行う。その際には、作業上の健康に関する注意点について の資料を配布する。
- ②防疫作業後にも健康調査を行う。作業後10日間は体温を測定し、健康観察を行うように指導する。また、抗インフルエンザ薬を処方された場合には用法・用量を守って使用するように説明する。

(2) 感染防止対策

- ①防疫作業者自らが鳥インフルエンザウイルスに感染する危険性があるため、 防疫服、手袋、マスク、ゴーグルは正しく着用しなければならない。
- ②マスク(N95規格)は確実に装着する。鼻部の金具を自身の鼻の形状にあ わせ、横から空気が漏れないようしっかりと密着させる。作業中にマスクを ゆるめたり、はずしたりしてはいけない。
- ③汚染した防護具を脱ぐ時には、着脱指導要員の指導を受けながら脱衣する。 事前に防疫演習などで、汚染部位を直接素手や素肌に触れさせずに脱衣する 手順を習得しておく(参考資料1参照)。

(3) 作業中の留意事項

- ①熱中症及び脱水症を起こさないように、班長は定期的に休憩時間を作り、防 疫作業者へ水分補給(スポーツドリンク等)を促す。
- ②気分や体調が悪くなったりケガをした場合は、すぐに班長へ申し出る。
- ③防疫服が破れるなど不備が生じた場合は、仮設基地へ戻り、新しい防疫服に 着替える。
- ④防疫作業に使用する消石灰、炭酸ソーダなどは、水分に触れると強アルカリ性となり、皮膚や粘膜に障害を起こすことから肌や眼等に触れないように注意して取り扱うよう説明する。
- ⑤消毒薬が眼に入った場合は、応急処置としてきれいな水で洗う。
- ⑥消毒薬が皮膚に付着した場合は、仮設基地に戻って服を脱ぎ、皮膚を流水と

石けん等でよく洗う。

- ⑦消毒薬を吸入した場合は、新鮮な空気のある場所へ移動して休憩する。
- ⑧消毒薬を誤って飲み込んだ場合は、応急措置としてきれいな水で口をすすぐ。
- ⑨応急処置後は、速やかに医療機関を受診する。
- (4) 作業終了後の留意事項
- ①作業終了時には所定の場所で脱衣し、手洗い、うがいを必ず行う。
- ②集合基地退場後は速やかに帰宅し、入浴する。着用した衣服は速やかに洗濯する。
- ③当日は十分に睡眠を取り身体を休める。作業終了後、気分がすぐれない、眠れないなどの症状がある場合は、遠慮なく所属長等に相談する。
- ④防疫作業者は、作業のあった日の翌日から10日間は、毎日健康状態をチェックする。インフルエンザを疑う症状が現れた場合は、速やかに所属長等へ報告するとともに、あらかじめ指示されている保健所等へ連絡する。

8. 防疫作業者への注意事項

まん延防止の観点から、防疫作業者は最終作業日から原則7日間は発生農場以外の鳥類に接触しないよう説明する。

(参考) 作業者の健康管理に関する参考資料

熱中症の予防と対策

熱中症は、夏場などの高温多湿の環境で起こりやすくなりますが、冬場であっても、家 きん舎内は温度管理されていること、また、慣れない重労働等により、熱中症を発症する おそれがあります。また、身体が環境に慣れていない作業初日に起こりやすい傾向があり ます。

特に、通気性の悪い防疫服を着用しての作業では、汗による体温降下が妨げられ、熱中 症がより起こりやすくなります。

【持病を持っている方へ】

以下の病気を持っている方は、熱中症を起こしやすいので、防疫服を着用しての作業は 基本的に避けるとともに、作業を行う場合はより一層注意する必要があります。体調不良 時には早めに申し出てください。

○糖尿病 ○精神·神経疾患

〇高血圧、心疾患 〇風邪等による発熱

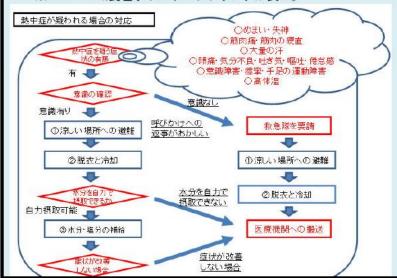
○腎不全 ○下痢等での脱水

〇肥満

【作業前日や当日の注意】

熱中症の予防には、日常の健康管理が大切です。

- ○前日は、十分な睡眠を。
- 〇前日の飲酒は控えて。(二日酔いは厳禁)
- 〇朝食は必ず摂取を。
- ○作業の強度に応じて、適宜休憩を。
- 〇作業前後及び作業中には、定期的に水分・塩分の補給を。
 - ※ 0.1~0.2%食塩水やスポーツドリンクが良い。



消毒薬による皮膚・粘膜の障害

【皮膚・粘膜障害の予防】

防疫作業で消毒に使用される消石灰や炭酸ソーダは、水分に触れると強アルカリ性を示し、皮膚 ・粘膜等に障害を起こします。そのため、消毒薬を取り扱う作業時には、肌や眼等に触れないよう、 手袋、防疫服やゴーグル及びマスクを適切に装着しておく必要があります。

また、作業後には、流水、石けんで十分に洗い流すとともに、汚染された手や衣類が顔や眼に触 れないように十分に注意してください。

汚染された衣類は、再度使用する前に必ず洗濯してください。

【作業時の注意】

- ○暑い時期でも、長袖、長ズボンを着用した上に防疫服を装着。
- ○防疫服と手袋の間、長靴と防疫服の間にガムテープを巻く。
- O首回りはタオルで防御。
- ○マスクを着用し、休憩毎に取り替える。
- 〇休憩時には、うがい、手洗い、洗顔。
- 〇消毒薬が目に入ったり、皮膚に付着した時は、すぐに洗浄する必要があるが、近くに水道がない 場合に備えて、緊急洗浄用の水を用意しておく。

【皮膚・粘膜障害の応急措置】

(眼に入った場合)

[症状] 眼の充血・痛み、角膜等のびらん [対応]

- ① 応急措置として、きれいな水で15分以上の洗浄。
- ② 眼科へすぐに連絡して受診。

(皮膚に付着した場合)

[症状] 刺激、発赤、ざらつき、痛み、皮膚の乾燥、水疱、びらん [対応]

- ① 汚染された衣類を脱ぐ。
- ② 多量の水と石けんで洗う。
- ③ 皮膚刺激がある場合や気分が悪い場合は、医療機関で受診。

(吸入した場合)

(飲み込んだ場合)

[症状] 咽頭痛、咳、灼熱感 [対応]

[症状] 灼熱感、腹痛、胃けいれん、嘔吐 [対応]

- ① 新鮮な空気のある場所に移動。

- ② 呼吸しやすい姿勢で休息。
- ② 気分が悪い場合は、医療機関で受診。
- ③ 気分が悪い場合は、医療機関で受診。

医療機関受診時の留意事項

医療機関は、不特定多数の人が出入しており、感染拡大防止への慎重な対応が必要とされる場所です。防疫作業中の体調不良やケガにより、医療機関で受診する場合、以下のような 感染拡大防止対策をお願いいたします。

なお、鳥インフルエンザは基本的に人に感染しないことから、以下の対応は人(医療従事者)への感染防止というよりは、鳥インフルエンザウイルスのまん延防止の目的で必要とされるものです。

【現場での対応】

(現場でできる応急措置)

例 1. 熱中症 →「熱中症の予防と対策」を参考に

例2. 消毒薬による障害 →「消毒薬による皮膚・粘膜の障害」を参考に

例3. 多量の出血等の場合 → 圧迫等による止血等の処置

(患者を清潔な状態にする)

① 自力で着脱等が可能な場合

防疫服全体の消毒 → 脱衣 → 靴の履き替え → 手洗い → うがい → 洗顔 → 手洗い

② 自力での着脱等が困難な場合

周囲の方が、可能な範囲で上記手順に従い、着脱等を行い、汚染されていると思われる部分や顔、手などの消毒薬による清拭(拭き取り)を行う。

- ※1 防疫服の表面(汚染されている側)が、本人の衣服等に触れないように注意。
 - 2 防疫服の脱衣が困難な場合は、はさみで防疫服を切断して脱がせる。

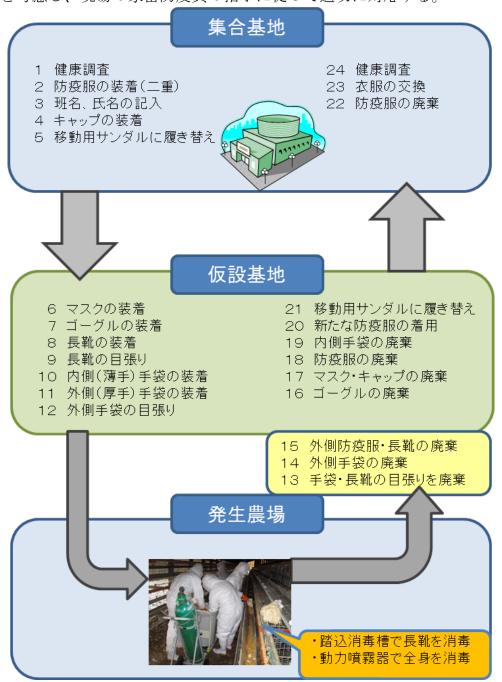
(救急隊及び医療機関への情報提供)

- ○患者の症状、発症時の周囲の状況等の情報提供
- ○患者の汚染状況等の情報提供
- 手順通りの着脱等が実施されている場合
 - → 通常の診療で対応可能、特別な感染対策は必要ないことを伝えてください。
- ② 手順通りの着脱等が実施されていない場合
 - → ガウン、マスク、グローブを使用し、使用後は感染性廃棄物として廃棄するよう伝えてください。(救急隊には、搬送後、塩素系消毒薬やアルコールによる車内清拭を行うよう伝えます。)
- ◎ 感染対策について疑義がある場合は、管轄の保健所に相談するよう伝えてください。
 - ※ 防疫作業後に後日受診する際、特別な感染防止対策は必要ありません。

防護具の着脱方法

1. 着脱の流れ

防護具は、病原体や刺激性のある消毒薬から作業者を守るために着用する。 また、病原体を農場の外に持ち出さないためには、脱衣の順番にも気を付ける 必要がある。本マニュアルを参考にして、適切に着脱するように心がける。 なお、ここに示す方法は一例にすぎないため、作業場所や仮設基地の設置状況 などを考慮し、現場の家畜防疫員の指示に従って適切に対応する。



2. 主な防護具

着用する主な防護具は、以下の通り。

防疫服と手袋、長靴との境を目張りするためのガムテープ、集合基地と仮設 基地との往来に使用する移動用サンダルなどが必要となる。



防疫服には様々なタイプがあるが、できる限り皮膚が露出しないタイプのものを選ぶ。また、N95 マスクは、顔に密着させないと十分な効果が期待できず、正しく装着するためには熟練が必要なため、事前に練習しておく。原則として、防疫服は、付着した病原体を拡散させないため、2枚重ねで装着する必要がある。なお、防疫作業の終了後、防疫服は仮設基地で2枚とも脱ぎ、別途、新しい防疫服を着用して集合基地に移動する。

3. 防護具の着脱方法

(1) 防護具の着衣方法

○集合基地

①名前を書き、防疫服を2枚着る



防疫服の前と後ろに、「班名 と名前」を記入しておく



内側防疫服のファスナーは、 上まで上げておく



内側防疫服のフードは中に 入れる

②キャップをする



・髪の長いものは、あらかじ めゴム等で束ね、キャップよ りはみ出さないようにする。 ・キャップの中に髪を入れる。

③移動サンダルに履き替え



○仮設基地

④マスク装着



金属の部分を指で鼻の形にしておき、鼻梁のところ に隙間がないように形を 作っておくこと。



あらかじめフィットテストを実施したものと同種のマスクを選択すること。
①N95マスクの表側を下にして手のひらに持つ。(ゴムバンドは手先の方に回しておく。)
②一方の手でN95マスクの下側のゴムジンを共た。

②一方の手でN95マスクの下側のゴムバンドを持ち、N95マスクをロに当て、後頭部へ回してかける。(ゴムバンドは耳の下側に位置させる。)
③次にN95マスク上側のゴムバンドを持ち、後頭部へ回してかける。(ゴムバンドは耳の上側に位置させる。)
④ねじれの無いよう確認すること。



漏れがないよう最終確認 吸気:マスクがへこむ 呼気:空気が漏れない か確認する

⑤曇り止めを塗布し、ゴーグルをする



長さ調節をあらかじめしておくこと

⑥フードをかぶり、ファスナー を上げて、テープを張る





⑦長靴を履き、ガムテープで固定する。



長ズボンの裾は、長靴の中に入れ、防疫服は、長靴の外に出す。 ガムテープで固定する。 この時、折り返しを作り、 外しやすくしておく。

⑧手袋の装着(インナー)



インナー手袋は、防疫服の中に入れる。防疫服の下に、長袖の衣類を着ているときは、衣類にかぶせる。

⑨手袋の装着(アウター)



アウター手袋は、防疫服の袖を覆うように着用する。

⑩手袋をガムテープで固定



ガムテープで固定する。 この時、折り返しを作り、 外しやすくしておく。

装着完了



(2) 防護具の脱衣方法

○仮設基地手前

脱衣は、介助者(防疫服装着)と行う。

①長靴を固定していたガムテープをはがす





iii-27

②アウター手袋を外す





- 張る ②片方の手首近くの縁 の外側をつまむ ③手袋が裏表反対にな るよう手から脱がす ④脱いだ手袋を、手袋を した反対の手で持つ ⑤残っている手袋の手 首の下に手袋をしてない 指を滑りこませる ⑥先に脱いだ手袋を内

側にくるみながら、裏表 反対になるように脱がす。

①両手の指先を少し引っ



インナー手袋を消毒 (一行為、一消毒)

③防疫服の前のシールをはがして、 ファスナーを下す。







一行為、一消毒

4防疫服を脱ぐ







防疫服の内側を持ち、内側が外側になるよう丸めるように脱いでいく

⑤長靴を防疫服と同時に脱ぐ





一行為、一消毒

脱ぎ終わった防疫服は、廃棄物入れ、長靴は所定の場所に置く

・・・・・・・仮設基地に移動・・・・・

○仮設基地

⑥ゴーグルを外す



一行為、一消毒



ゴーグルの左右縁の一番端を持ち、前方に引っ張りそのまま持ち上げる。

⑦マスクを外す





- ①両手でN95マスクの下側のゴムバンドを後頭部からゴムを左右に伸ばし気味に頭頂部に持ち上げる ②顎の斜め下部まで持って行き、片手に持ち替える。
- ③一方の手で、上のゴムバンドを持ち、頭頂部の方 にゆっくり引き上げる。
- ④N95マスクが弾いたり、大きく揺れないように両手でバランスをとりながら、顔面から離していく。



一行為、一消毒

iii -20

⑧キャップを外す



表面を触らないようにして左右から指を滑り込ませ、そのまま上に持ち上げる。



一行為、一消毒

9防疫服を脱ぐ



防疫服の内側を持ち、内側が外側になるよう丸め るように脱いでいく





一行為、一消毒

⑩インナー手袋を外す





- ①片方の手首近くの縁の外側をつまむ
- ②手袋が裏表反対になるよう手から脱がす
- ③脱いだ手袋を、手袋をした反対の手で持つ
- ④残っている手袋の手首の下に手袋をしてない 指を滑りこませる
- ⑤先に脱いだ手袋を内側にくるみながら、裏表 反対になるように脱がす。



一行為、一消毒

- ⑪手洗い、うがい。
- ⑩新しい防疫服を着て、移動用サンダル を履く。



----・バスで移動・・・・・・・・・

- ○集合基地
 - ③防疫服の廃棄、手洗い
 - 個衣類の交換
 - 15健康調査

必要資材一覧(3万羽規模の発生想定) (農場防疫作業: 3日間)(消毒ポイント: 15か所、3日間)

区分	区分	チェック	品名	規格	備考	3万羽規模必要量	
			防疫服セット	M	防疫服1枚、ディスポ・帽子、マスク、ゴークル	150	
			防疫服セット	L	(防曇加工済)、インナー手袋、アウター手袋、	500	
			防疫服セット	XL	装着マニュアル、廃棄用袋	450	
			防疫服	М		150	
	防疫具		防疫服 防疫服	XL	_動員者数の1.5倍	500 450	
			マジック	ΛL	防護服への名前等表示用	90	
			ラッカースプレー(赤、青)	300m1	的成员 · • • • • • • • • • • • • • • • • • •	12	
			ディスポ帽子		動員者数の1.5倍	1, 100	
			ゴムサンダル	足	動員者数の2/3	500	
			識別ベスト① 識別ベスト②	XL XL	リーダー サブリーダー	12	
		+	ホワイトボード	90cm*90cm	記録、連絡、予定表など	6	
			ホワイトボード用マジック		記録、連絡、予定表など	18	
			携帯電話		本部との連絡用	2	
			携帯電話モバイルバッテリー 拡声器		本部との連絡用	2	
	指示者用		が 単語 作業マニュアル (1枚紙)		動員者数の1.5倍	1, 100	
# ^ # 114			作業内容説明用パネル		划员 自纵071.0旧	3	
集合基地			デジタルカメラ			2	
			はさみ			3	
			カッター 筆記用具			3 10	
			単記用具 紙挟み		1	10	
			うがい薬	200ml	<u> </u>	30	
			薬用ハンドソープ	200m l		30	
			アルコールスプレー			10	
			消毒用エタノール キムタオル 24束	500ml 24束	18Lの場合は漏斗が必要 手指、洗面など	40 30	
			大ムダイル 24束 救急箱	24果	手指、洗風など	50	
	作業者衛		毛布			50	
	生対策等		カイロ				
			軽食		A.F. ChicAhur	750	
			暖房器具(石油ストーブ) 扇風機		冬季、広さに合わせて 夏季、広さに合わせて	8	
			保温ポット		冬季		
			紙コップ			1,500	
			水分(温かい飲み物、冷たい飲み物等)		季節に合わせて	1,500	
			コーン バー	重し込み			
			立入禁止看板		農場出入り口	3	
			テント(7.2m×14.4m) ※白色側幕付き	4間×8間	D. WILLY	3	
			テント床			3	
			テント(5.3m×8.8m) ※白色側幕付き	3間×5間	資材・脱衣・休憩テント用	3	
			ユニック車 ダンプカー	4t	テント設置用 椅子・机運搬用	1 2	
]	すのこ		テントまでの動線、(雨天時の資材床上用)	40	
	仮設基地		折り畳み椅子			100	
	建設		長机			10	
			暖房器具(石油ストーブ) 投光器		夜間作業用	2	
			アント内照明		校间IF采用	6	
			発電機			2	
			電エドラム(防雨用)			2	
			時計		1	4	
			洗面所 簡易トイレ		<u> </u>	5	
			トイレットペーパー	12ロール	<u> </u>	3	
			防疫服	М	ー作業中の破れ等による着替え	50	
仮設基地			防疫服	L	一(動員者数の0.5倍)	200	
			防疫服 防疫服	XL M	+	100 150	
			防疫服	L	▲ 作業後の着替用(動員者数の1.5倍)	500	
				防疫服	XL	The state of the s	450
			マジック		防護服への名前等表示用	45	
			ラッカースプレー(赤、青)	300ml	防護服への表示用	800	
			ディスポ帽子 防護マスク (N95)		作業中の破れ等による交換 動員者数の1.5倍	1, 100	
		. –	ゴーグル(防曇加工済)		作業中の破損等による交換	400	
						30	
	防疫具		曇り止め液(アンチフォッグ)		はおきを用	735	
	防疫具		雨合羽	70 // *	動員者用		
	防疫具		雨合羽 キムワイプ 72箱	72箱 Mマ∇	ゴーグルの汚れ、曇り除去用	30	
	防疫具		雨合羽 キムワイプ 72箱 インナー手袋 (双) M	72箱 M双 L双			
	防疫具		雨合羽 キムワイプ 72箱	M双	ゴーグルの汚れ、曇り除去用 作業中の破れ等による交換	30 400 1, 400 50	
	防疫具		雨合羽 キムワイプ 72箱 インナー手袋 (双) M インナー手袋 (双) L アウター手袋 (双) 青M アウター手袋 (双) 青L	M双 L双 M双 L双	ゴーグルの汚れ、曇り除去用 作業中の破れ等による交換 (動員者数の2.5倍)	30 400 1, 400 50 300	
	防疫具		雨合羽 キムワイプ 72箱 インナー手袋 (双) M インナー手袋 (双) L アウター手袋 (双) 青M アウター手袋 (双) 青L アウター手袋 (双) 青L	M双 L双 M双 L双 LL双	ゴーグルの汚れ、曇り除去用 作業中の破れ等による交換 (動員者数の2.5倍) 作業中の破れ等による交換	30 400 1,400 50 300 50	
	防疫具		雨合羽 キムワイプ 72箱 インナー手袋 (双) M インナー手袋 (双) L アウター手袋 (双) 青M アウター手袋 (双) 青L アウター手袋 (双) 青L ゴム長靴 (26)	M双 L双 M双 L双 LL双 26cm	ゴーグルの汚れ、曇り除去用 作業中の破れ等による交換 (動員者数の2.5倍) 作業中の破れ等による交換 (動員者数の0.5倍)	30 400 1, 400 50 300 50 450	
	防疫具		雨合羽 キムワイプ 72箱 インナー手袋 (双) M インナー手袋 (双) L アウター手袋 (双) 青M アウター手袋 (双) 青L アウター手袋 (双) 青L	M双 L双 M双 L双 LL双	ゴーグルの汚れ、曇り除去用 作業中の破れ等による交換 (動員者数の2.5倍) 作業中の破れ等による交換	30 400 1,400 50 300 50	

必要資材一覧(3万羽規模の発生想定)

(農場防疫作業:3日間) (消毒ポイント:15か所、3日間)

区分	区分	チェック	品名	規格	備考	3万羽規模必要量
			消石灰	20kg	鶏舎内外消毒	6
			石灰散布機		農場内散布用	
			竹ほうき		鶏舎清掃用	
			レーキ(熊手)	-	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
			剣スコップ		93.8 清掃用 93.8 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元	
			角スコップ 手押し噴霧器	4L	鶏舎清掃用	
			動力噴霧器	最大出力5.9		
			あゆみ	1本	1台分	
	消毒用		動噴用タンク 500L	17	107	
	71374713		軽トラック		動力噴霧器、動噴用タンク運搬用	
			ガソリン缶(携行)	10L	30.70 気務電、幼気/ログンク足脈/ロ	
			雨合羽	セット	消毒者用	
			消毒槽	20L	入口用、送迎バス昇降時	
			逆性石けん	1L	鶏舎内外消毒(500倍)3回消毒	
			ホース	50m	消毒用	
			ビニールテープ	10m	消毒時の目張りなど	
			洗浄用ブラシ		鶏舎内外消毒	
			通行制限表示板			
			炭酸ガスボンベ(30kg)	30kg	サイホン式、(700羽/1本)(400羽/本)	
			スノーホン			
			ボンベ台車		折りたたみ式リアカー	
1			殺処分用ポリバケツ	90L		
1			台車			
			捕獲用ネット	1m*5m	破損予備含む	
1			ベニア板(コンパネより軽い素材)	1m*1.8m	肉用鶏補鳥用反省	
1			ドラム缶用ビニール袋			
	殺処分		脚立	2m	採卵用鶏補鳥用	
			コンパネ	1m*1.8m	仮設通路敷設用	
			フレコンバック	1 t	死体、卵、飼料、鶏糞、ゴミ用	3
			結束ひも	50cm・本	殺処分·消毒·埋却	6, 0
			ポリ袋(鶏用)(ゴミ用)	90L·枚	殺処分鶏を入れる、(一部ゴミ用)	12, 0
			ペール缶		(焼却の場合のみ使用)2羽/20L	6,0
			ドラム缶		25羽/缶	
			木製パレット		1枚でドラム缶6積載	
			ストレッチフィルム	300m	焼却時死体ダンボール巻き	
			識別ベスト①	XL	リーダー	
設基地			識別ベスト②	XL	サブリーダー	
			識別ベスト③	XL	農場職員	
			ホワイトボード	90cm*90cm	記録、連絡、予定表など	
			ホワイトボード用マジック		記録、連絡、予定表など	
			携帯電話		本部との連絡用	
			携帯電話モバイルバッテリー		本部との連絡用	
			トランシーバ			
	指示者用		拡声器			
	1678-6711		時計			
			作業マニュアル(1枚紙)		動員者数の1.5倍	1,
			作業内容説明用パネル			
			デジタルカメラ			
			カメラバッテリー			
			筆記用具			
			はさみ			1
			カッター			1
			紙挟み			
			20Lタンク	20L	手洗い、うがい用	
			うがい薬	200ml		1
			薬用ハンドソープ	200m l		1
			アルコールスプレー	Ļ		ļ
	作業者衛 生対策等		消毒用エタノール	500m l	18Lの場合は漏斗が必要	ļ
			キムタオル 24束	24束	手指、洗面など	
			救急箱	ļ		1
			毛布	ļ		
			カイロ		冬季	ļ
			軽食			
			暖房器具(石油ストーブ)		冬季、広さに合わせて	ļ
			扇風機		夏季、広さに合わせて	ļ
			保温ポット		冬季	
			紙コップ	ļ		1,
			水分(温かい飲み物、冷たい飲み物等)	ļ	季節に合わせて	1,
			フロントローダー、ボブキャット		鶏舎除糞、搬出用	
			I	1		1
			フォークリフト			
	香地		ジェークリフト ダンプカー		埋却用(フレコンバック輸送用)	
	重機			双	埋却用(フレコンバック輸送用) 発生農場と焼却施設の距離を考慮	

必要資材一覧(3万羽規模の発生想定)

(農場防疫作業:3日間) (消毒ポイント:15か所、3日間)

区分	区分	チェック	品名	規格	備考	3万羽規模必要量
			牽引用ワイヤ			10
			ロープ			10
			誘導表示板			6
			一輪車		鶏舎清掃用	30
			小型リヤカー		鶏搬出用	10
	機材		ニッパー			5
	1双171		ワイヤーカッター			5
			クギぬき			5
			投光器		夜間作業用	5
			発電機			2
仮設基地			電エドラム(防雨用)			2
			工具セット			2
	評価		筆記用具			10
			紙挟み			10
			電卓			3
			携帯電話			3
			デジタルカメラ			3
			カウンター			3
			メジャー	50m		2
			ラッカースプレー	300m l		6
			評価記録用紙(防水用紙)			20

必要資材一覧(3万羽規模の発生想定)

(農場防疫作業:3日間) (消毒ポイント:15か所、3日間)

区分	区分	チェック	品名	規格	備考	3万羽規模必要量
			防疫服	L		100
			防疫服	XL		100
			識別ベスト①	XL		4
			識別ベスト②	XL		4
			ディスポ帽子			200
			防護マスク (N95)			400
			ゴーグル(防曇加工済)			200
			曇り止め液			20
			インナー手袋(双)M	M双		200
			インナー手袋(双)L	L双		200
			アウター手袋(双)青L	L双		200
			アウター手袋(双)青LL	LL双		200
焼却施設	焼却施設		ゴム長靴 (26)	26cm		200
			ゴム長靴 (27)	27cm		200
			ゴム長靴 (28)	28cm		50
			ホワイトボード	90cm*90cm		3
			雨合羽	セット		200
			動力噴霧器			4
			動噴用タンク 500L			4
			軽トラック		動力噴霧器、動噴用タンク運搬用	4
			ガソリン缶(携行)	20L		8
			逆性石けん	1L		60
			筆記用具			5
			紙挟み			5
			台帳(防水用紙)			5
	埋却		バックホウ(0.7㎡以上)	0.7m ³	埋却溝掘削(レンタル)	2
			フロントローダー		レンタル	1
			バルーンライト		レンタル	3
			ブルーシート(20×20)	20m*20m	埋却溝用	10
			ブルーシート(15×15)	15m*15m	埋却溝用	10
			ブルーシート(10×10)	10m*10m	雨天時鶏舎出入口の雨避け	10
埋却			木抗	1.5m		90
(生却)			ブルーシート又は寒冷紗	5 × 10m	目隠し用	15
			脚立	2m		20
			ロープ	200m		3
			鎌又はカッター		ロープ切断用	3
			ハンマー			7
			消石灰	20kg	鶏舎内外、埋却溝に散布	150
			動力噴霧器(タンク、ホース)	セット	埋却出入口及び埋却溝用	